



2005年9月18日(日)「仙元山ハイキング」に出かけました。場所は、埼玉県の小川町。八王子駅から八高線の電車に乗り、高麗川駅で八高線の気動車に乗り換えます。電化されていない高麗川 - 高崎は、本数が少なく、八王子を予定より1本早い電車に乗ったのですが、結局、高麗川でその分待つことになりました。

小川町は、和紙で有名なのですが、訪れてみると、産業としても観光としてもそれを感じることができず、ちょっと残念でした。そんなさびしい駅前商店街を抜けると、新しく整備された広い道路が走り、なんだかちぐはぐな感じです。

登山口から仙元山山頂までは、30分ほどで到着します。ここから“青山城址”“大日山”と歩くつもりだったのですが、道を間違えてアッという間に下山してしまいました。「これじゃあ何しに来たかわからない」というわけで、“見晴らしの丘公園”を目指したところ、一度下山した身体が再び登山モードになるには(年をとると?)むずかしく、最初の“その気”の3倍くらいは疲れました。そんな疲れを吹き飛ばしてくれたのが“見晴らしの丘公園”からの眺めと電化されていない八高線がくれた待ち時間を利用した“足湯と酒”でした。

速かったり遅かったりで疲れながらも、それを楽しんだハイキングでした。



結局、“待つこと”は同じ

7時45分、八王子駅横浜線ホームに集合したのは、小野勝彦さん、桜井利子さん、加藤忠・純代夫妻、宮部忠和・香与子夫妻、板垣実さん、佐藤忠夫さん、町田行弘の9名。佐藤さんは、加藤さんが職場で知り合った方で今回が初参加です。8時1分の電車に乗るため八高線ホームへ移動すると、1本早い7時47分の電車がいたので乗ることにしました。これで、高麗川駅で1本早い列車(気動車)に乗ればというかすかな期待を抱いて…。高麗川駅に近づき車内放送で乗り換えの案内を聞くと、「高崎方面は9時1分……」“やっぱり同じことか”結局、高麗川駅で約30分待ちとなったのです。

八高線は、八王子と高崎を結びます。途中駅の高麗川から川越を経て大宮を結ぶのが川越線でもどちらも電化されていませんでした。埼京線の開業で、川越-大宮が電化され、それに伴い川越-高麗川-八王子が電化されました。取り残された高麗川-高崎の八高線は、電車ではなくディーゼル列車が走るローカル線となりました。当然、本数は少なく1時間に1本程度しかありません。実は、これが帰りに幸いすることになるのですが…?



和紙で有名な小川町

小川町に着いたのは、予定通り9時34分、駅前の商店街を歩き始めました。朝早いめか開店している店はほとんどないのですが、小さな和紙の店やうなぎ屋が存在します。小川町は、和紙で有名なところで、奈良時代には和紙作りが始まっていたようです。和紙作りに必要なのは、冷たい清流と原料の楮(木の皮が原料)で、このあたりは、これらの自然条件に恵まれていたのです。そして、その製法を伝えたのは、高麗川付近に居住した大陸の帰化



人ということ。さらに大消費地がさほど遠くない江戸ということで納得できます。しかし、戦後は手漉きから機械紙へ移り、手漉き業者は廃業していきます。清流と和紙、清流とうなぎか…。

目的地は“駅=酒”か？

商店街を抜けると、国道254号線にぶつかり、左折し、本町2丁目交差点を右折します。しばらく行くと槻川。この川が和紙作りに欠かせないゆったりした清流でした。さらに進むと広い交差点に出ます。この交差点を渡ってすぐに左斜めの道を入ります。八高線の踏切を渡ってすぐに右折すると、仙元山登山道入口があり、ここから未舗装の山道が始まりました。小川町駅から約30分、時刻は10時10分。



畑の中を歩いて行くと、鳥居が現れ、“仙元山遊歩道”の立派な標識があり、山の中へ侵入していきます。右側に沢が流れるうっそうとした細い道を登ります。木陰と水の音で涼しげだったのも束の間、上りがきつくなるにつれて体温が上昇して汗が噴き出してきました。休憩をとり、ウォーミングアップは充分、涼しい格好になります。すると、中年男女のハイカー集団が、通過していきました。小野さんが「いやあよく集めたね、美人ばかり」といつものように声をかけます。「いやいや、アハハ」と照れ笑い。「小川町の駅に集まって、私たちより先に出発した人たちですよ」と宮部さん。確かにそうです。“どこかに立ち寄って来たのかな”気に入った山を季節を変えて訪れるという楽しみ方をすると、時間が読めて、余裕ができて、いろいろ付け加えることもできるのかも…。私たち「WTR CLUB」は、基本的に新しい山にチャレンジしているので、なかなか余裕がなく“駅～山頂～駅=酒”みたいな。“駅=酒”が頭にあるかぎり、何度同じ山を登ってもあわただしいかもね。

ショートカットしたら、もう終わり

抜いていった集団も、やはり、登り始めて15分くらいがつらいのでしょうか、ところどころでそれぞれ休憩をとり、今度は私たちが先を歩きます。登山口から約30分、見晴らしの丘公園へ下る道と仙元山へ登る道との分岐が現れました。もちろん、



右方向の急な上り坂を進みます。登りきって少し下ったところに展望台がありましたが、見るからに誰も上っていきそうもありません。

というも、展望台の前には木々が生い茂り、上らなくても展望は望めそうもないことがわかるからです。意味のない展望台を素通りして、数十メートル歩くと仙元山山頂です。10時50分、さすがに昼食には早過ぎます。標識の前で記念撮影をして、青山城址目指して出発です。



林の中を下って行くと、山道が直角に左折していて、標識もそちらを指しています。正面には“青山城址へは自転車で侵入するな”というような注意書きの立て札が立っていました。左を指す標識には、“割谷橋”の文字。これから向かうのは、“青山城址”“大日山”“割谷橋”ですから、疑うことなく左へ進みました。ところが、道は下り続けるばかり、青山城址に向かう道



ではなく、割谷橋へ下りるショートカットの道だと気付きます。青山城址へは、先程の標識の場所を直進するのでした。全く見当違いのところに向かっていくようなコースアウトでしたら、間違えた場所まで戻り、正しいコースを歩くのですが、“ショートカットならまあいいか”とそのまま下り続けます。山頂から約30分、舗装路に放り出されて、あっけなく「仙元山ハイキング」は終了してしまいました。時刻は、11時30分、お昼ご飯も食べていなく、小川町駅までは約1時間、“駅=酒”とはいえ、早過ぎるし物足りない。ガイドブックの地図を見て、見晴らしの丘公園へ行ってお弁当を食べることにします。





もう一度というのは...

一般道を駅に向かい歩くこと30分、正午のサイレンを聞いて、再び“仙元山遊歩道”に足を踏み入れました。“見晴らしの丘公園・ローラーすべり台”の標識は、仙元山周辺至るところで見かけましたし、すべり台があるということは、子供連れで遊びに行く場所でしょうから、比較的楽に登れると思ったのです。

入口からしばらくは、緩やかな上り勾配だったのですが、次第に薄暗くなり、遊歩道というよりは、いわゆる山道という雰囲気になりました。さらに、山の斜面を直線的に上る急勾配に変わりました。この道は、もしかしたら、このまま仙元山山頂へ続いているのかもと思って歩くと見晴らしの丘公園に向かう車道に出ました。そして、左上に東屋が見えます。お昼ご飯は、ここにしましょう。約15分間のまさかのきつい上りでみんな疲れてしまい、“いやぁきつかった。一気に食欲が無くなった”登った山を下りきって、もう一度というの



は、なかなかむずかしいことで、沼津アルプスのようにわかっていても、高柄山のようにそういうコースであっても、まして、今回のようにあり得ないことはもう...

その名の通り、見晴らし抜群！

食事をしていると、若い母親2人と子供が5人、東屋を訪れます。私たちは、辛い思いでたどり着いたのに“いったいどこからやって来たのか”と思い聞いてみると「すぐその公園の駐車場からです」「そうですか」と、答えながら“そうなんだ”と気持ちは複雑。食事を終えて、ここのほうが山頂らしいという気分です。再び集合写真を撮り、出発です。車道に出て、せっかくだから、見晴らしの丘公園を見て行きましょうと歩き出します。確かに駐車場はすぐのところにあり、その先に、展望台と芝生の広場があり、左側の山の斜面を利用して、長いローラーすべり台が設置されていて、家族連れで賑わっていました。芝生広場を歩いていくと、素晴らしい展望が広がっていました。遠くの山並み、近くに見下ろす街並み、芝生の緑と斜面の木々、この日一番の眺めでした。3回目の集合写真を撮り、しばらく明るい華やかな雰囲気を楽しむことにしました。



制覇したのか、もてあそばれたのか？

見晴らしの丘公園からの下山はアツという間で、車道を小川町駅に向かって行くと、朝登り始めた“登山口”に至りました。仙元山とその界隈を制覇したような気分で小川町駅に到着します。

時刻は14時35分、たった今、14時32分の列車が出たばかりで、次はなんと15時52分！待ち時間は1時間以上！でも、じたばたしても仕方ありません。待つしかないのです。ちょうど駅前に最近オープンした、足湯につかりながらお酒が飲める酒屋があり、そこで時間を潰すことにしました。これがなかなか快適で、列車の時刻が近づいても“もう少し！”というほど。時間と山にもてあそばれ、遊び返した(?)仙元山ハイキングでした。





町田行弘	229-1103	神奈川県相模原市橋本 5-29-12 メゾン・アン・ソレイユ 201 042-773-7415
小野勝彦	194-0041	東京都町田市玉川学園 8-22-2 042-725-8403
桜井利子	194-0001	東京都町田市つくし野 1-32-17 042-796-9591
加藤忠	194-0033	東京都町田市木曽町 651-1 市営 1-201 042-727-8949
加藤純代	194-0033	東京都町田市木曽町 651-1 市営 1-201 042-727-8949
宮部忠和	192-0363	東京都八王子市別所 1-103-15 0426-78-0666
宮部香与子	192-0363	東京都八王子市別所 1-103-15 0426-78-0666
板垣実	194-0032	東京都町田市本町田 2577 ホ -22-101 042-793-1271
佐藤忠夫	192-0364	東京都八王子市南大沢 2-12-3 0426-76-6246

